

# 2012年3月期第3四半期 決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

## 第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

### 2012年3月期第3四半期 決算のポイント

- 第一生命(以下、「当社」)・第一フロンティア生命のいずれも新契約年換算保険料は前年同期比でプラス成長を達成しました。また、海外連結子会社でも、保険の販売は高水準の伸びとなりました。その結果、連結経常収益は前年同期比6%増の3兆5,968億円となりました。
- 厳しい市場環境を背景に第2四半期並みの有価証券評価損を計上したことに加えて、法人税制改正に伴う会計処理の影響で一時的な費用が発生したため、連結純利益は前年同期比19%減の127億円となりました。
- 国内株式残高の削減、超長期国債の積み増し等は順調に進んでおり、株価低迷下でも有価証券含み益が増加するとともに、ソルベンシーマージン比率は低下したものの十分に健全な水準を維持しています。

#### (1) 経常収益

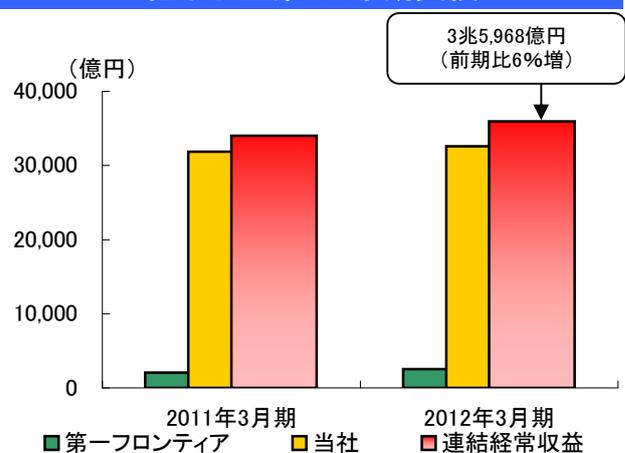
連結経常収益は3兆5,968億円(前年同期比6%増)となりました。

保険料等収入は、当社及び第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)において新商品の投入効果がプラス寄与したことに加え、今年度から連結子会社となったオーストラリアTAL社<sup>(注)</sup>の保険料収入も貢献し、高い伸びとなりました。

(注)オーストラリアTAL社とは？

2011年5月、当社の関連会社だったタワー社(TOWER Australia Limited)を完全子会社化し、4月1日より連結業績に取り込んでいます。タワー社は2011年6月に社名変更を行い、TAL社(TAL Limited)となりました。

#### 経常収益第3四半期実績

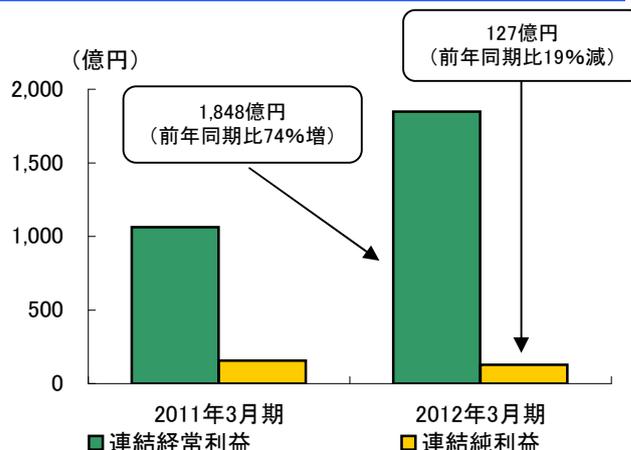


## (2) 経常利益・純利益

連結経常利益は1,848億円(前年同期比74%増)、連結純利益は127億円(同19%減)となりました。

厳しい市場環境を受けて有価証券評価損が第2四半期並みに高水準だったことに加え、法人税制改正に伴う一時的な費用もあり準備金の一部を取り崩したことから、連結経常利益は前年同期比増となりました。一方、連結純利益は税制改正による費用計上の影響で前年同期比減となりました。

### 経常利益・純利益第3四半期実績



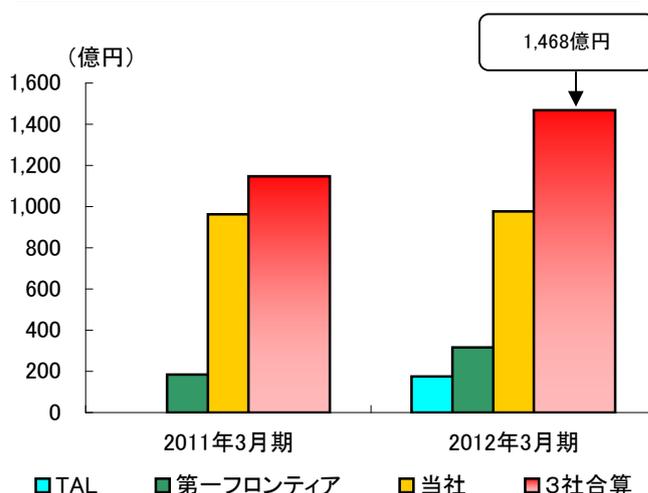
## (3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア、TALの3社合算ベースで、1,468億円となりました。

当社では、医療保険の新商品「メディカルエール」の販売好調などから、新契約年換算保険料は976億円(前年同期比1.4%増)となりました。

一方、第一フロンティアの新契約年換算保険料は、定額年金の販売が好調なため、前年同期比で70.7%増加しました。

### 新契約年換算保険料

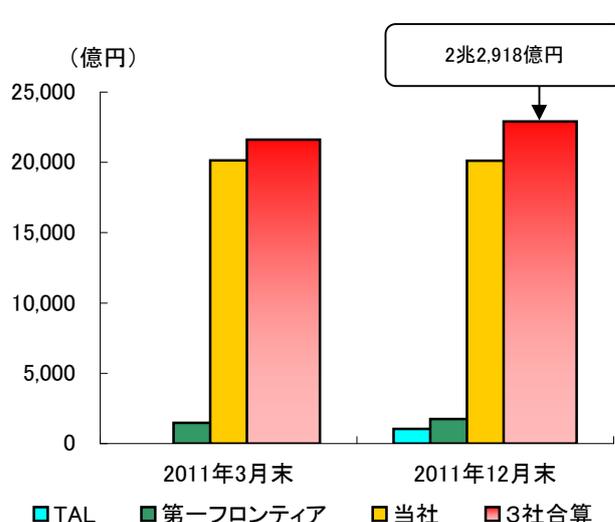


## (4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア、TALの3社合算ベースで、2兆2,918億円となりました。

このうち、医療保険を中心とする第三分野の年換算保険料は5,141億円(前期末比1.5%増)となり、保有契約全体の年換算保険料の伸びを後押ししました。

### 保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2011年12月末)は、株価下落により株式の含み損益が悪化した一方、金利低下に伴う債券価格上昇により国内債券の含み益が増加したため、8,413億円(前期末比2,021億円増)となりました。

含み損益(当社、一般勘定)

	2011年 3月末	2011年 12月末	増減
有価証券	6,141	8,475	+2,334
うち国内債券	3,838	8,299	+4,461
うち国内株式	3,056	792	△2,264
うち外国証券	△804	△657	+147
不動産	205	△77	△282
その他共計	6,392	8,413	+2,021

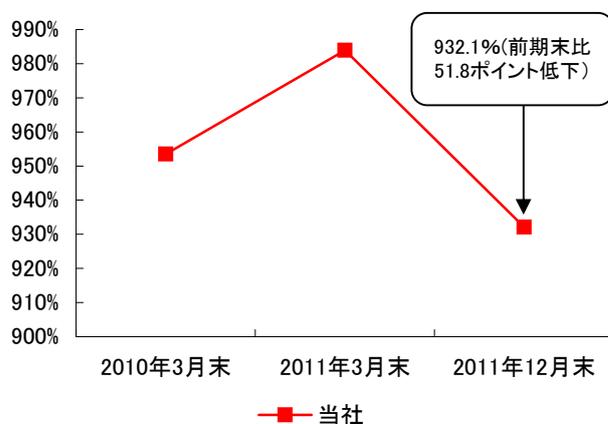
(億円)

(6) ソルベンシー・マージン比率(注)

当社のソルベンシー・マージン比率(2011年12月末)は、内部留保の一部を取り崩した影響を受け、932.1%(前期末比51.8ポイント低下)となりました。

なお、今期末より導入される新基準に基づくソルベンシー・マージン比率も、516.4%となり、前年度末の547.7%と比べて低下しましたが、十分に健全な水準を維持しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

1月31日に2012年3月期業績予想について修正のお知らせをしていますが、これは当社とTAL社における保険料収入が増加する見込みであること等により、経常収益を上方修正する一方、法人税制改正に伴う会計処理により当期純利益を下方修正するものです。

なお、修正後の業績予想は、経常収益は4兆7,800億円(前期比2,084億円増)、経常利益は2,100億円(前期比1,288億円増)、当期純利益は200億円(前期比8億円増)を見込んでいます。

連結業績予想

	2011年3月期 (実績)	2012年3月期 (予想)	増減
経常収益	45,715	47,800	+2,084
経常利益	811	2,100	+1,288
当期純利益	191	200	+8
(円)			
1株当たり 当期純利益※	1,917	2,026	+109
1株当たり 期末配当金	1,600	1,600	-

※1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。